管鮑之交（ハリ）

要旨

春秋時代、斉では君主の襄公が殺害されると、子糾と小白はその位を争い、結局、小白が位について桓公となった。桓公は、鮑叔の推薦を受け入れ、自分の命を狙った管仲を重用した。推薦は、鮑叔が常に管仲を理解しその才能を認めていたからであった。管仲はそれに深く感謝した。

構成

段落	ページ・行	段意
第一段	初め～一三八・8〈用レ之。〉	斉では君主の襄公が殺害されると、それまで亡命していた弟の子糾と小白はその位を争った。子糾には管仲、小白には鮑叔が守り役として付き従った。結局、小白が位につき桓公となった。桓公は、鮑叔の推薦を受け入れ、自分の命を狙った管仲を重用した。
第二段	一三八・9〈管仲字夷吾。〉～一三九・3〈鮑子也。」〉	商売の利益を自ら多く取ったり、謀り事に失敗したり、敗走したりする管仲を鮑叔は許した。それは、管仲を理解しその才能を認めていたからである。管仲はそれに深く感謝した。
第三段	一三九・4〈桓公九二合諸侯一〉～終わり	桓公は、管仲の画策によって天下の覇者となった。そして、管仲を一にも二にも「仲父、仲父」と慕うのであった。

訓読と現代語訳

【第一段】 ①斉は姜姓なり。②桓公に至りて諸侯に覇たり。③五覇は桓公を始めと為す。④名は小白。⑤兄の襄公無道なり。⑥群弟禍の及ばんことを恐る。⑦子糾魯に奔る。⑧管仲之に傅たり。⑨小白莒に奔る。⑩鮑叔之に傅たり。⑪襄公弟無知の弒する所と為り、無知も亦人の殺す所と為る。⑫斉人小白を莒より召く。⑬而して魯も亦兵を発して糾を送る。⑭管仲嘗て莒の道を遮り、小白を射て帯鉤に中つ。⑮小白先づ斉に至りて立つ。⑯鮑叔牙管仲を薦めて政を為さしむ。⑰公は怨みを置きて之を用みる。

【第二段】 ⑱管仲字は夷吾。⑲嘗て鮑叔と賈す。⑳利を分かつに多く自ら与ふ。㉑鮑叔以て貪と為さず。㉒仲の貧なるを知ればなり。㉓嘗て事を謀りて窮困す。㉔鮑叔以て愚と為さず。㉕時に利と不利と有るを知ればなり。㉖嘗て三たび戦ひ三たび走る。㉗鮑叔以て怯と為さず。㉘仲に老母有るを知ればなり。㉙仲曰はく、「我を生む者は父母、我を知る者は鮑子なり。」と。

【第一段】 ①斉は（君主の姓が）姜姓であった。②桓公の代になって諸侯の旗頭となった。③春秋時代の五人の覇者は桓公を始めとする。④名は小白。⑤兄の襄公は無道（で道に外れた暴虐な行いをする人）であった。⑥（そのため）多くの弟たちは禍が自らの身にふりかかることを恐れた。⑦（弟の一人である）子糾は魯に逃げた。⑧管仲はこの子糾の守り役であった。⑨（一方、同じく弟の一人である）小白は莒に逃げた。⑩鮑叔はこの小白の守り役であった。⑪（その後）襄公は（もう一人の）弟の無知に殺され、その無知もまた（ある）人に殺されてしまった。⑫（そこで）斉の国の人々は小白を莒より呼び戻し（君主にしようとし）た。⑬そして魯の国もまた（自国に亡命していた子糾を君主にしようと）軍隊を派遣して子糾を送り込んできた。⑭管仲は以前莒（から斉に通じる）道（で小白の行く手）をふさぎ、小白を（矢で）射て（それが）帯を締めるための金具に当たったことがあった。⑮（君位継承問題は、結局、）小白が先に斉に入国して即位し（斉の君主となっ）た。（これが桓公である。）⑯鮑叔牙は（桓公に）管仲を推薦して政治を執り行わせた。⑰桓公は怨みを捨てて管仲を重用した。

【第二段】 ⑱管仲は字を夷吾といった。⑲以前、鮑叔と商いをしたことがあった。⑳その利益を分配するのにあたって（管仲は）多く自分に利益を与えた。㉑（だからといって）鮑叔は（管仲を）欲深いとは思わなかった。㉒管仲が貧しいことを知っていたからである。㉓以前（管仲は鮑叔のために）物事を画策して（かえって失敗して鮑叔は）行き詰まり苦しんだことがあった。㉔（だからといって）鮑叔は管仲を愚か者だとは思わなかった。㉕時によい時と悪い時があるのを知っていたからである。㉖（また管仲は）以前三回戦って三回とも敗走したことがあった。㉗（だからといって）鮑叔は管仲を臆病だとは思わなかった。㉘管仲に年老いた母がいることを知っていたからである。㉙（だから）管仲は言った、「私を生んでくれたのは父母であり、私を最もよく理解してくれているのは鮑君だ。」と。

【第三段】㉚桓公諸侯を九合し、天下を一匡せしは、皆仲の謀なり。㉛一にも則ち仲父、二にも則ち仲父といへり。

【第三段】㉚桓公が諸侯を集め合わせて、天下を統一し乱れを正したのは、みな管仲の策略によるものだ。㉛（そこで桓公は）一にも仲父、二にも仲父といった。

学習活動のポイント

導入

学習活動のポイント

❶斉の桓公の活躍した春秋時代の概略を確認する。

❶漢和辞典・インターネット・資料集などを用い、グループで調べさせる。この調査や説明に、多くの時間を費やすことができないので指導者が事前にまとめたプリントを用意し配布するか、そのポイントだけを板書して簡単に説明してもよい。「春秋時代」の概略プリントは、後出「解説」Ⅰ春秋時代の概略を参考にして作成し、確認させるとよい。「覇者」の時代であったということに注意させる。

展開

学習活動のポイント

❶本文を黙読する。その後、範読を聞く。
❷一斉読みをする。その後、グループ内で読み合う。
❸「管鮑之交」の意味を調べ、それを参考に、この話の要旨をまとめ、発表する。
❹現代語訳をする。知技⑵ウ
❺内容読解をする。思判表B⑴ア〔「学習のポイント」1〕

❶範読はゆっくり丁寧に読む。
【注意させる読みの箇所】「覇」「奔レ魯。」「傅」「為二弟無知所一レ弑」「中」「薦二管仲一為レ政。」「賈」「謀」「怯」
❷大きな声で読むよう指導する。
❸辞書などで「管鮑之交」の意味を調べ、それを参考に、要旨をノートにまとめ、発表させる。（五十字程度。）要旨の発表は、

黒板に板書させてもよいし、口頭で発表させてもよい。

❹第一段落と、第二・三段落に分けて現代語訳をする。ともに、生徒数名を指名し、現代語訳させる。難解な箇所については、生徒の発表状況を見て指導者が補足する。

・第一段落

【注意すべき句形】「為二弟無知所一レ弑」（受身）「薦二管仲一為レ政。」（使役）

【注意すべき語句】「覇二諸侯一。」「奔レ魯。」「弑」「中」「立」

・第二・三段落

【注意すべき語句】「賈」「謀」「怯」

【評価】【注意すべき語句】【注意すべき句形】を正確に現代語訳できているかを確認し、漢文を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解しているか、ノートや提出物などにより分析する。

❺次の**ア**～**キ**のポイントに注意する。**ア**小白が子糾よりも早く斉に到着することができた理由、**イ**鮑叔が管仲を桓公に薦めた理由、**ウ**「置レ怨」の意味、**エ**管仲の三つの行動における鮑叔の評価と、その理由、**オ**「知レ我者鮑子也。」から読み取れる管仲の気持ち、**カ**「対偶」表現の指摘とその効果、**キ**本文に登場する人物の関係。それぞれグループで話し合い、代表者が発表してもよい。

ア…事前に「史記」斉太公世家のプリント（後出「『解説Ⅰ』『史記』斉太公世家について」参照）を作成し、それを用いてグループで話し合わせ、代表に発表させる。ポイントは、「小白が弓に当たったという報告を受けた魯の軍勢は、安心してしまい、子糾を斉に送るスピードをゆるめてしまった。実は、当たっていなかった小白は弓に当たって死んだようにみせかけ、管仲たちが死んだと思い込んでいることを利用し、一目散に斉に急いだ。」ということ。「語句の研究」キーポイント参照。

イ…「為政」（使役）の意味するところを、グループで話し合い、読み解かせる。現代語訳は「政治を執り行わせた」だが、敵方にいた管仲になぜ政治を執り行わせたのかを読み解かせる。

ウ…恨みを捨てた理由をグループで話し合い、読み解かせる。

エ…本文を丁寧に読み解かせる。

オ…自由に発表させてよいが、単なる印象ではなく、根拠に基づかせる。管仲が「鮑子」という呼び方に込めた心情を理解させる。

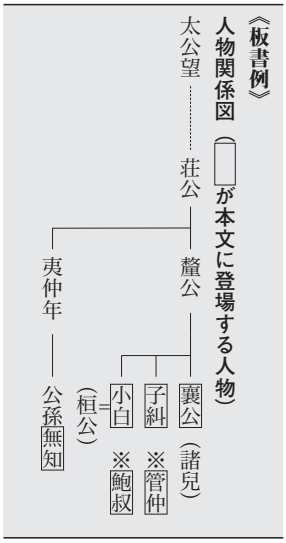
カ…「対偶」の意味について説明し、それに基づいて「対偶」表現とその効果についてグループで話し合い、見つけ出させる。「対偶」とは「二つの句をたがいに対応させて対（つい）にする技法。漢文の修辞法の中ではもっとも代表的なものである。…なお対句法は対偶法（たいぐうほう）ともいう。」（田部井文雄他『漢文学習ハンドブック』大修館書店、P65）ということ。どのような効果があるかについては「対句の箇所を音読してみよう。」という助言を与えるとよい。

キ…本文に登場する人物の関係図は、左のようになるが、この図の中で本文に登場してこない「太公望・荘公・釐公・夷仲年」については、指導者が語注などを用い簡単な説明をする。

図示の仕方は、グループで工夫させる。

《板書例》

人物関係図（□が本文に登場する人物）



主な登場人物の設定

襄公＝「無道」。無知に殺される。
子糾＝魯に亡命。魯が斉に送り込む。
小白（桓公）＝莒に亡命。斉の人々（大夫の高傒ら）が呼び戻す。
管仲＝子糾の守り役。小白殺害に失敗。桓公に重用される。
鮑叔＝小白の守り役。管仲を推薦。

【評価】 それぞれの読解のポイントについて、本文の内容をもとに的確に捉えているか、ノートや提出物などにより確認する。

■まとめ

学習活動のポイント

❶ 管仲が鮑叔に、鮑叔が管仲に抱く心情を、本文に即してまとめる。そのうえで、管仲と鮑叔は、それぞれどのような人物として描かれているか、グループで話し合い、代表が発表する。思判表B(1)イ　主態　**〔「言語活動」1〕**

❷ ❶で発表した自グループの考えについて、他グループから質問や意見を受け、それに対する返答を検討する。さらに、返答の仕方も工夫する。

❸「管鮑之交」とは、どのような関係か、グループで話し合い、代表が発表する。知技(1)ウ　**〔「言葉と表現」1〕**

❹「謀る」「図る」「計る」「測る」「量る」「諮る」の意味の違いを調べる。知技(1)イ　**〔「言葉と表現」2〕**

❺ まとめの朗読をする。

❶この活動の前に、場合によっては、話し合うポイントを指示してもよい。それは以下の通り。「①管仲の鮑叔に対する心情は、『仲曰、「生レ我者父母、知レ我者鮑子也。」』に描かれている。②鮑叔の管仲に対する心情は、『管仲字夷吾。…知二仲有一レ老母一也。』に描かれている。そのうえで、③それぞれの人物像を表現する適切な言葉をグループで考え、発表する。」

【評価】・管仲と鮑叔がお互いに抱く心情と、それぞれの人物の描

かれ方を捉えているか、ノートや提出物などにより確認する。

・管仲と鮑叔がお互いに抱く心情と、それぞれの人物の描かれ方について、グループ内で主体的な態度で話し合い、また、自分の考えをグループ内の他者に分かりやすく伝えようとしているか、分析する。

❷他グループの質問や意見を十分に検討させることは、生徒たちに考えを深めさせることになる。また、返答の仕方を工夫させることは表現の仕方の学習にもつなげられる。そこで、指導者は「他グループの発表を聞きながら、各グループはその理解に対する疑問点・質問や意見を考え、メモしておくこと。後ほど、それに対する話し合いをします。」という注意を与える。生徒が考えを深めるためには、他からの意見と自分たちの考えを検討するという言語活動が大事となる。

❸「言語活動」[1]で学習した内容を確認し、そこから「管仲」と「鮑叔」との関係を表すのに適切な言葉を、グループで話し合わせる。また、その言葉にした根拠も提示させる。

【評価】本文から「管鮑之交」とはどのような関係なのかを読み解き、我が国の言語文化に特徴的な語句の文化的背景に理解を深めているか、確認する。

❹漢和辞典の中の「同訓異義語」の項にまとまっているので、そこを確認させる。

【評価】同訓異義語の意味の違いを調べ、漢字への理解を深めているか、確認する。

❺大きな声で各文の意味を考えながら、音読させる。

発問例

●一三八ページ

問 **斉の桓公の活躍した時代はどのような時代か。**

答 「春秋時代」とは、周王室を中心とした封建制が崩壊しその権威が次第に衰え、諸国が対立・抗争を繰り返し小国を併合した有力諸侯、つまり「覇者」が台頭した時代をいう。この時の代表的な「覇者」が「春秋の五覇」である。後出「解説Ⅰ春秋時代の概略」参照。

補 国語便覧・漢和辞典などを用いて調べさせる。

問 **「無道」（3行目）とは、現代では具体的にどのような行為をする人をいうと考えられるか。**

答 **補** 模範解答はないので自由に発表させる。「人の道に外れた暴虐な行為」とはどのような行為をいうか。現代の高校生がどのように考えているかを知るのは興味深い。

問 **「禍」（3行目）とはどのようなことをいうか。**

答 暴虐な襄公に（いわれなき罪を着せられ不当に）殺されてしまうこと。

補 文脈に沿って具体的な例を考えさせる。

問 **「奔」（3行目）の意味を的確に表す二字の**

語句の研究

●一三八ページ

2斉　春秋戦国時代の大国。現在の山東省にあった。太公望呂尚が、周の文王を補佐し、殷を滅ぼした功績によって武王から封ぜられた国。「姜姓」とは、呂尚の祖先がかつて呂の国の諸侯だったので「呂」を姓としたが、本姓は姜といったの意。

2桓公　斉の君主。前六八五年～前六四三年在位。生年未詳～前六四三年。管仲の補佐を得て富国強兵をはかり、「春秋の五覇」の第一となった。管仲没後、竪刁・易牙・開方などを用いて政治を怠ったため、死後、斉の覇業は衰えた。「鑑賞Ⅱ 管仲の遺言」参照。

2覇　諸侯の旗頭になる。「覇者」とは、周王室を名目だけ尊びながら、その実、武力で他の諸侯を征服することにより天下を安定させる者をいう。

2五覇　春秋時代の五人の覇者。この五人については諸説あるが、いずれの場合も斉の桓公を第一に挙げる。他の四人は、晋の文公・宋の襄公・楚の荘王・秦の穆公（「呂氏春秋」当務・注）などである。

3襄公　斉の君主。前六九七年～前六八六年在位。名は諸兒。釐公の子。「学習活動のポイント」の「人物関係図」参照。

3無道　人の道に外れた暴虐な行いをする人。「史記」斉太公世家には「襄公は、異母妹で魯の桓公の夫人である文姜と以前から情を交わし（不義密通）ていたばかりか、たまたま斉を訪問していた魯の桓公を酔わせて殺すことや、臣下にいたずらに誅罰を加えるなどの無道を平気で行っていた。」（略述）とある。

3禍　具体的には、暴虐な襄公に（言われなき罪を着せられ不当に）殺されてしまうこと。

3子糾　襄公の弟。小白の庶兄。「人物関係図」参照。生年未詳～前六八五年。君位争いに敗れ、斉の命によって魯で殺される。

3奔　出奔する。逃げ出す。

3魯　春秋時代の国。現在の山東省曲阜市一帯にあった。子糾の母の国。

3管仲　斉の宰相。生年未詳～前六四五年。名は夷吾。字は仲。諡は敬。そのため、管敬仲ともいう。民生を安定させ、富国強兵を図り、斉の桓公を覇者とした。「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち栄辱

熟語を答えよ。
答　出奔。
補　漢和辞典で調べさせる。

問　「弑」（5行目）と「殺」（5行目）の意味の違いを調べよ。
答　「弑」は身分の下の者（臣下・子）が上の者（君主・親）を殺す。「殺」は、ひろく命を絶つ。

問　斉の人々が「小白」（5行目）を呼び戻した目的は何か。
答　斉の人々（大夫の高傒と国氏らが中心）は小白を莒から呼び戻し、君位につかせ、斉の実権を握ろうとしたから。
補　文脈から考えさせる。亡命していた小白を君主のいない斉に呼び戻すのだから、その意味は比較的容易に気付くであろう。「語句の研究」参照。

問　魯が「糾」（6行目）を軍隊を派遣してまで斉に送ったのはなぜか。
答　魯もまた自国に亡命していた子糾を斉に送り込み、君主にしようとしたから。
補　魯は、子糾を君主にし、その後ろ盾となって実権を握ろうとしたと考えられる。

問　鮑叔が管仲を桓公に「薦」（7行目）めたのはなぜか。
答　斉の桓公が天下の覇者となるには、管仲の国や天下を治める才能が必要だと知っていたから。

を知る」（「管子」牧民編）という管仲の言葉は有名。

4傅　守り役となる。教育係のこと。子糾には、この時、管仲と召忽が「傅」となった。召忽は子糾が殺されると、殉じて自殺したといわれる。管仲は鮑叔によって斉に推薦されるなどして生き延びた。

4小白　斉の桓公のこと。

4莒　春秋時代の国。現在の山東省莒県にあった。

4鮑叔　生没年未詳。斉の家臣。「鮑叔牙」ともいう。生没年未詳。管仲を桓公に推薦すると、その後は管仲の下にあって桓公の覇業を助けた（「史記」管晏列伝）。

4弟　無知は襄公の従兄弟に当たり、どちらも荘公の孫になる（「人物関係図」参照）が、中国では同世代の年下の者を「弟」という。

4無知　襄公の叔父（夷仲年）の子（「人物関係図」参照）。斉の荘公は、無知を寵愛し、公子諸兒と同じ待遇にした。そのため、公孫無知という。諸兒が斉の襄公となると、その待遇を下げたのでそれを怨んで反乱を起こし殺害した（「史記」斉太公世家）。

5弑　殺す。身分の下の者（臣下・子）が上の者（君主・親）を殺す。

5人　ある人。「春秋左氏伝」（荘公八・九年）によると、かつて無知が虐待した雍廩（ようりん）であるとする。雍廩は斉の太夫。

5召二小白於莒一　斉の人々は（協議して君主にしようと）小白を莒から呼び戻した。「史記」斉太公世家によると、小白と仲のよかった、大夫の高傒と、同じ大夫の国氏らが中心になって呼び戻そうとした。

6魯亦発レ兵送レ糾　魯もまた軍隊を派遣して糾を斉に送り込もうとした。魯も自国に亡命していた子糾を斉の君主にしようとしたのである。

6管仲嘗遮二莒道一　管仲は、魯の命令によって別動隊を率いて、莒から斉に通じる道を遮断し小白の斉への入国を妨害しようとした。そして、小白を殺そうと弓で射た（「史記」斉太公世家）。

6帯鉤　帯を締めるための金具。帯金。

7小白先至レ斉而立　小白が先に斉に着き即位した。

キー・ポイント　「小白」が「子糾」よりも早く斉に到着することができた理由　管仲は、魯の命令によって別動隊を率いて、莒から斉に通じる道を遮断し小白の斉への入

補 この発問をした場合、生徒は「才能があるから。」とだけ答える。そこで「どのような才能だと思うか。」とさらに発問し、それはどのような「力」かを答えさせる。そこで、事前に「史記」斉太公世家の現代語訳をプリント（この箇所が説明してある部分でよい）を用いて考えさせてもよい。「語句の研究」参照。

問 **「怨」（8行目）とは、具体的に何を指すか。**

答 管仲に弓で命をねらわれたこと。

補 管仲は小白に何をしたかというヒントを与えてもよい。

問 ◉**「置レ怨」（8行目）とは、どのような意味か。**

答 怨みを捨てる。

補 「置」の意味を漢和辞典で調べさせる。「語句の研究」参照。

問 **「賈」（9行目）と「商」の意味の違いを調べよ。**

答 「賈」は、店を構えて商売する。「居商」。「商」は、「行商」。

補 漢和辞典でそれぞれ調べさせる。

●一三九ページ

問 **「知レ我者鮑子也。」（2行目）から、管仲のどのような気持ちが読み取れるか。**

答 自分（管仲）に政治的手腕や才能があることを理解してくれる人物は鮑叔だけだという気持ち。

国を妨害しようとした。そして、小白を殺そうと弓を射た。その矢が小白に当たったという報告を受けた魯の軍勢は、安心して子糾を送るスピードをゆるめ六日もかかって斉に到着した。ところが、その実、矢は帯鉤に当たり小白は無傷であった。鮑叔は、管仲たちが矢が当たって小白は死んだと思い込んでいることを上手く利用しようと、温車（死骸を入れる車）を仕立て小白に死んだふりをさせた。このようにして、管仲を欺くと一目散で斉に向かい、先に入国を果たしたのである。（以上のことは、「史記」斉太公世家に記述されている。）

8薦二管仲一為レ政　「薦二……一〜」は使役形。「句法」参照。鮑叔が管仲をどのように薦めたかは「史記」斉太公世家に詳しい。その弁を略述しておく。「君将に斉を治めんとせば、即ち高傒と叔牙とにて足る。君且に覇王たらんと欲せば、管夷吾に非ざれば不可なり。（斉の国だけを無事に治めるなら、大夫の高傒と自分の二人で十分ですが、天下の覇王になろうとするならば管仲の力は不可欠です。）」

8置レ怨　怨みを捨てて。「置」は、すておく・やめる。「怨」は、かつて管仲に弓を射られたこと。

9字　成人した男性が本名の他に付ける呼び名。中国では、男子が成人（二十歳）になると「冠」（元服）し、字を付ける。字で呼ぶことは、相手に敬意を表すものなので、自分自身及び目下の人（君主が臣下、親が子、師が弟子）を呼ぶときには名を用い、それ以外の他人を呼ぶときには、字を用いる。名を呼ぶことは、相手を支配することも意味し、目上の者には避けることとなった。それが、死後にも引き継がれ、忌み避くべき名という意味で「諱（いみな）」が生じる。なので、生前にはない。

9与　並列の助詞。

9賈　商いをする。「賈」は、店を構えて商売する。「居商」のこと。「商」は、行商のこと。

9自与　自分で自分に利益を与える。多く自らが取ったの意。

10不二以為一レ貪　貪欲としなかった。「不下以二管仲一為上レ貪」の省略形。「以レA為レB」は「AヲもつテBトなス」と読み、「AをBと思う」と訳す。

10謀レ事　（管仲が鮑叔のために）物事を画策した。何を画策したかは分からないが、

とを理解し、逆境にあって不本意な行為をしても常に温かく善意をもって接し支援してくれた鮑叔への感謝の気持ち。

補 自由に発表させてよいが、単なる印象ではなく、根拠に基づかせる。

問 **登場人物関係図をグループで作成せよ。**

答 「学習活動のポイント」参照。

補 本文に登場しない「太公望・荘公・釐公・夷仲年」については、指導者が語注などを用い説明。図示の仕方はグループで工夫させる。

問 **「対偶」表現を抜き出し、その効果を説明せよ。**

答 《対偶》

・「嘗与二鮑叔一賈。—鮑叔不二以為一レ貪。知二仲貧一也。」

⇔

「嘗謀レ事窮困。—鮑叔不二以為一レ愚。知三時有二利不利一也。」

⇔

「嘗三戦三走。—鮑叔不二以為一レ怯。知三仲有二老母一也。」

・「生レ我者父母」

⇔

「知レ我者鮑子」

《効果》

「対偶」表現を用いることで、文章がリズミカルになり、読者にとって読みやすくなるばかりか理解しやすくもなる。さらに、「十八史略」に即するならば、その文章の特色の一つとして挙げられるスピード感は、「対偶」という修辞が支えているといっても過言ではない。

補 漢文では「対偶」表現が多く用いられていることに注意させる。

補 漢文では「対偶」表現が多く用いられていることに注意させる。

かえって鮑叔を苦しめる結果となってしまった。

● 一三九ページ

1 知三時有二利不利一也 時勢にはよい時と悪い時があるのを知っている。状況によってうまくいく時もありいかない時もあるの意。

1 三戦三走 三回戦い三回とも敗走した。戦うたびに卑怯にも逃げ帰ってきたの意。「三」は三回、またはしばしば・たびたびの意。

2 怯 臆病。

3 鮑子 鮑君。鮑叔のこと。「子」は、ここでは男子の敬称。そこで、現代語訳を「鮑君」とした。

4 九合 集め合わせる。「九」は「糾」（あつめる）と同じ。

4 一匡 天下を統一し、乱れを正すこと。「匡」は、正す。

5 仲父 管仲のこと。「父」は父のように尊敬できる人物に付ける。いかに信任が厚かったかを示す言葉。

句法

為二弟無知所一レ弑　受身形。「為二……所一レ〜」（ル・ノト・スル）の形で、「……ノ〜スルところトなル」と読み、「……に〜される」の意。

薦二管仲一為レ政。　使役形。「薦二……一〜」（メテ・ヲ・シム）の形で「……ヲすすメテ〜シム」と読み、「……を薦めて〜させる」と訳す。「命」「説」「教」と同じように使役を暗示する語なので、下の動詞に使役の助動詞「しむ」を接続させて訓読する。

解説

Ⅰ 春秋時代の概略

殷王朝を攻め亡ぼした武王が鎬京（陝西省西安市）に都をおき天子となり建てた国が周王朝である（前一一二二年）。武王没後の周王朝は、その子成王を補佐し摂政となった周公旦（武王の弟）が周王朝の礼楽・諸制度を整備し充実させ、後に孔子から「郁々乎文哉」（郁々乎として文なるかな）と賞賛された黄金時代を作り上げた。しかし、約三百年経つうちに次第に権威が衰え、諸侯を統率する力を失ってきた。加えて異民族の侵入も活発化し、幽王は侵入してきた犬戎によって攻め殺され、その子平王はその圧迫を避けるため、前七七〇年、都を鎬京から洛邑（河南省洛邑市）に遷した。これを「周の東遷」といい、これ以前を西周、以降を東周と呼ぶが、一般に、周の東遷から秦の統一までを春秋戦国時代と呼んでいる。周の威烈王のとき、晋の大夫であった韓氏・魏氏・趙氏が晋を滅ぼしてその土地を分割し、それぞれが独立する（前四五三年）と周王朝がそれらを諸侯と認めたため（前四〇三年）、それを画期として前期を春秋時代、後期を戦国時代と分けて称する。春秋時代は、周王朝の実力が著しく低下し、その権威はすっかり地に落ちた。その一方で、封建諸侯は周王室の統制を離れて各自の思惑によって土地の開発や軍備を盛んにし富国強兵に努め、同盟や戦争を繰り返しては領土の拡張にしのぎを削り、独立的傾向を強めていった。そして、次第に弱小の都市を併呑して周初に栄えた一千近くの都市国家は百あまりの有力諸侯に整理されていった。このうちでも秦・晋・斉・楚・魯・衛・燕・曹・宋・陳・蔡・鄭・呉・越の十四国が強大となった。こうして歴史の主役の座は諸侯へと移っていった。また、このころ異民族の動きも活発になってきたため、有力諸侯の間には、自分たちは共通の中華諸侯であるという意識が生じ、その連帯意識のもとで形式的に周王朝を奉じ、夷狄の侵攻を防ぐこと（尊王攘夷）を大義名分として同盟を結んだ。さらに、自らその同盟の長となって天下の実権を握ろうとする動きも生じた。覇者と呼ばれるのは実はこの同盟の長なのである。その覇者として、名宰相・管仲の補佐を得て諸侯を葵丘（河南省蘭考県の東）に会盟させ（前六五一年）、最初の覇者となった斉の桓公や十九年に及ぶ亡命生活を家臣によって支えられ晋の君主となり諸侯を践土（河南省内）に会盟させ（前六三四年）、覇者となった晋の文公などがいる。当時、このような有力諸侯が五人現れたので総称して「春秋の五覇」と呼んだ。（このため、春秋時代は覇者の時代ともいわれる）。その五人とは、斉の桓公、晋の文王、楚の荘王、宋の襄公、秦の穆公のことである。しかし、これには異説があり、宋の襄公、秦

の穆公に代わり呉王闔閭・越王勾践を入れることもある。このような権力の下降現象（下剋上）は、それぞれの諸侯内部でも例外ではなく、諸侯とその権臣、権臣相互の間にも勢力争いが起こった。これらの傾向に一層の拍車がかかったのは、戦国時代である（このため、戦国時代は簒奪の時代ともいわれる）。

春秋時代という名称は、孔子が魯国の史官の記録に基づいて著したとされる「春秋」に記載されている時代とほぼ重なっているため、そう称される。

Ⅱ「史記」斉太公世家第二

［本文］

而使三管仲一別将レ兵、遮二莒道一。射中二小白帯鉤一。小白詳死。管仲使二人馳報レ魯。魯送糾者、行益遅。六日至レ斉、則小白已入、高傒立之。是為二桓公一。桓公之中レ鉤、詳死以誤二管仲一。已而載二温車中一馳行。亦有二高・国内応一。故得二先入立一。

［書き下し文］

而して管仲をして別に兵を将ゐて莒の道を遮らしむ。射て小白の帯鉤に中つ。小白詳り死す。管仲、人をして馳せて魯に報ぜしむ。魯の糾を送る者行くこと益遅し。六日にして斉に至れば、則ち小白已に入り、高傒之を立つ、是を桓公と為す。桓公の鉤に中てらるるや、詳り死し、以て管仲を誤らす。已にして温車中に載りて馳せ行く。亦た高国の内応有り。故に先づ入りて立つを得たり。

［現代語訳］

（魯でも無知の死を聞いて、）又、兵を発して公子の赳を送り届けようとし、管仲に命じて兵を率いて、莒から斉への道を遮断させた。その射た矢が小白の帯留めの金具に命中した。小白は死んだようにいつわった。管仲は使者を馳せて、小白を射殺したと魯に報告した。魯の糾を送る部隊はのんびりして行程がますます遅れた。六日かかって斉へ到着すると、小白は既に斉の都へ入って高傒（斉の正卿。高敬仲。）に擁立されていた。これが桓公である。桓公が帯金に矢があたると、いつわって死んだふりをして管仲を誤らせた。やがて、死人を載せる温涼車に載って疾馳した。又、高氏と国氏の内応があったので、先に入国して位につくことができたのである。

（「史記上　世家上」〈新釈漢文体系〉吉田賢抗　明治書院　昭四十四　六一ページ～六三ページ）

鑑賞

Ⅰ「貧交行」杜甫

杜甫が管鮑の交わりを賞賛している詩があるので、それを紹介する。

貧交行

翻レ手作レ雲覆レ手雨　手のひらをちょっと上に向ければ雲となり、
紛紛軽薄何須レ数　今の世の人情はまことに定めなく、忽ちにして変わりやすい。世間無数の軽薄なやからは、いちいち数えたてる要もない。
君不レ見管鮑貧時交　君見たまえ、かの管仲と鮑叔との、貧乏時代の交わりを。

此道今人棄如レ土ノ　ああした美しい交友の道を、今の人は糞土のようにすててかえりみないのだ。

Ⅱ 管仲の遺言

管仲の人物を見抜く力の確かさを感じさせるエピソードがあるので、次に紹介する。

管仲が危篤に陥った時、桓公が見舞って、「（お前が死んだら）群臣の中で誰を大臣にしたらよかろうか。易牙はどうか。」と問うた。管仲はお答えして、「易牙はわが子を殺してその肉を君にすすめました。これは人情にはずれた行為です。かような者をお近づけになってはいけません。」といった。桓公がいうには、「では、開方はどうか。」と。管仲の答えに、「開方は親に背いて（国を飛び出し）君の思召に叶おうとしたものであります。これも人情にはずれた行為です。お近づけになってはいけません。」と。想うに開方はもとは衛の公子で、斉に逃げて来た者であるからだ。桓公が重ねて、「では竪刁はどうか。」と問うと、管仲は答えて、「竪刁はわれとわが身を去勢して、君のご機嫌を取って出世した男であります。これも人情にはずれております。お近づけにならぬがよろしい。」といった。間もなく管仲が死んだ。ところが桓公は管仲の言葉を用いず、ついに三人を近づけたので、三人は権力をほしいままにした。桓公にはお気に入りの婦人で、奥方のように羽振りのよい者が六人あって、どれにも男の子があった。公が亡くなると、五人の公子が位につくことを争って、互いに攻め合った。そのため桓公の屍体は寝台に横たわったまま、衣を着せるでもなく、棺に収めて祭るでもなく、六十七日も長いことうち捨ててあったので、屍体が腐って蛆がわき、戸外にまで這い出すという始末であった。

（「十八史略　上」〈新釈漢文大系〉林秀一　明治書院　昭四十二）